

氏名	岸井こずゑ	部署	健康開発学科	職名	准教授
研究分野	微生物学, 臨床微生物学, 感染制御学				
学位	博士（医学）				
学歴	1998年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業, 2008年順天堂大学大学院医学研究科感染制御科学博士課程修了				
経歴	1998年東京大学医学部附属病院 臨床検査技師, 2005年Public Health Research Institute (New jersey, USA) リサーチフェロー, 2008年北里大学北里生命科学研究所 研究員, 2011年東京大学大学院医学研究科 特任助教, 2014年東京工科大学医療保健学部 助教, 2018年埼玉県立大学保険医療福祉学部 准教授				
所属学会（役職）	日本臨床微生物学会（評議員）, 日本感染症学会, 日本化学療法学会, 日本臨床検査学教育学会, 日本臨床衛生検査技師会、埼玉県臨床検査技師会（査読委員）				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	埼玉県下水道水由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析	共著	あり		臨床検査学教育、18巻1号、111-112	村山浩基、 <u>岸井こずゑ</u> 、村井美代	2026.3
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	埼玉県下水道水由来および臨床由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析	共同	第19回日本臨床検査学教育学会学術大会、岡山市		○村山浩基、久恒順三、于連升、鹿山鎮男、菅原庸、 <u>岸井こずゑ</u> 、村井美代	2025.8	
2	<i>bla</i> _{CTX-M-15} 保有プラスミドの大腸菌間における接合伝達の検討	共同	第16回埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、越谷市		○比嘉茉莉子、一瀬夏菜、村井美代、 <u>岸井こずゑ</u>	2025.11	
3	埼玉県内下水道水由来カルバペネマーゼ産生菌の分子疫学解析	共同	第53回埼玉県医学検査学会、さいたま市		○志村紗季、亀山由奈、原田蒼依、比嘉茉莉子、于連升、鹿山鎮男、村井美代、 <u>岸井こずゑ</u>	2025.12	
4	2020年から5年間の埼玉県下水道水由来ESBL産生 <i>Escherichia coli</i> の分子疫学的解析	共同	第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会、幕張市		○一瀬夏菜、于連升、菅原庸、鹿山鎮男、菅井基行、村井美代、 <u>岸井こずゑ</u>	2026.2	
5	市中下水道水由来カルバペネマーゼ産 <i>Escherichia coli</i> の分子疫学	単独	第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会、幕張市		○ <u>岸井こずゑ</u>	2026.2	
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	埼玉県内の臨床および下水から分離したESBL産生大腸菌の解析		研究代表者	2021.04~2026.03		
2	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	アジア諸国と協調して展開するAdvanced One Health Tricycle Project		研究分担者	2023.04~2026.03		
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	埼玉県内の下水および臨床由来CPEの動向調査と薬剤耐性遺伝子伝播の評価		研究代表者	2025.04~2030.03		

3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	臨床微生物学Ⅰ	○	15	医学領域で重要となる微生物について、各微生物の特徴となる生物学的・科学的な性質に加え、その微生物が原因となる臨床事例を提示し、理解を深めることができた。		
2	臨床微生物学Ⅱ	○	8	ヒトの感染症の原因として重要なウイルスについて、その総論と各論を講義した。ウイルス性感染症についての最新の知見を交え、学生の興味をかき立てるよう工夫した。		
3	医療安全管理学	○	8	医の倫理、医療安全、臨床検査技師が行う検体採取について講義を行なった。また、具体的な臨床事例を多数活用した講義を展開するため、各分野の専門家にご講義いただく機会を設けた。		
4	臨床検査概論		1	臨床微生物検査の概要について講義を行った。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	臨床検査基礎演習		8	臨床微生物学、特に感染制御に関する分野の基礎的な演習を行なった。		
2	臨床微生物学演習	○	8	臨床微生物学実習で行った培養検査に引き続き形で直接塗抹標本検査および抗酸菌検査、さらに真菌検査と薬剤耐性遺伝子検査を行い、臨床微生物検査の理解をさらに深めた。		
3	医療安全管理学演習	○	8	適切な検体採取法とその接遇について、また検体採取に伴う危険因子と起こりうる合併症について理解するよう講義と実習を行なった。具体的な臨床事例を活用した講義を展開するため、専門家にご講義いただく機会を設けた。		
(3) 実習						
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	臨床微生物学実習	○	24	3年次学生を対象に、臨床において実際の微生物検査を滞りなく行うことができる基礎の習得を目標として模擬検体を用いた実習を行った。		
2	微生物学実習		24	2年次学生を対象に、微生物検査における基礎的な手技の習得を目標に、個々の学生に対して細やかな実技指導を行った。		
3	遺伝子染色体検査学実習		4	4年次学生を対象に、Multiplex-PCRによる薬剤耐性遺伝子の検出を行い、Multiplex-PCRの利便性や注意点を理解すると共に、遺伝子型と表現型を関連づけて考えることができるよう工夫した。		
4	ヒューマンケア体験実習		2025.04～09	当該実習は1年次学生が入学後初めて行う学外実習である。学科を越えたグループ編成であったこともあり、学生は様々な不安を抱えていた。その不安軽減のため、細やかな説明を心掛けた。施設側での感染症蔓延により実習が2月に延期となったグループがあった。		
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
1	卒業論文	2025.04-2025.12	主指導	4名	副指導	名
2	修士論文	2025.04-現在	主指導（指導教員）	1名	副指導（指導補助教員）	名
3	修士論文	2024.04-2026.03	主指導（指導教員）	名	副指導（指導補助教員）	1名
4	修士論文	2024.04-現在	主指導（指導教員）	名	副指導（指導補助教員）	1名
(5) その他						
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	該当なし					
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師						
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ			開催年月
1	該当なし					

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	日本臨床微生物学会	評議委員	2015.2-現在
2	日本臨床微生物学会	学術集会プログラム委員	2025.2-2026.2
3	埼玉県臨床検査技会	臨床検査技師養成校連絡協議会委員	2019.4-現在
4	埼玉県臨床検査技会	微生物研究班員	2020.4-現在
5	埼玉県臨床検査技会	査読委員	2020.4-現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	地域産学連携委員会	2020.4-現在
2	学科等における委員会等	臨地実習担当	2024.4-現在
3	大学広報活動	オープンキャンパス	2018.4-現在
4	学生支援	学年担任	2018.4-現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		